

## 2005 サステナブル建築世界会議東京大会

平成17年9月27日

皆様とともに、この2005サステナブル建築世界会議東京大会を開催できますことを喜ばしく思います。皆様に対して、また、特に海外の多くの様々な地域から我が国に来られた方々に対して、暖かい歓迎の意を表します。この会議をアジアで初めて開催できますことは、名誉でございます。

人類の歴史は、およそ6、7百万年前に遡り、17（種）ほどの人（ヒト）属のうち大きな脳を持った、ホモサピエンスが生き残り、世界の各地に分散いたしました。

独特な生態的地位に自らの肉体を適応させた他の種と違い、人類は火を使い、道具を作り、衣服を着て、移動の手段を発明し、そして家を建てることを選びました。そうすることにより、この地球全体を、その棲みかとしたのです。

1992年にリオデジャネイロで開かれた地球サミットで、「持続可能な開発」の考え方が注目を浴びました。しかし、それから13年の間に残念ながら、私たちはこの問題を解決できておりません。人類は、世界中で最も多数を占める大型動物です。そして、私たちがこの地球という星の環境に、単独でこの上ない影響を及ぼしてきたということは、紛れもない事実です。

私は、あらゆるレベルで具体的な行動を起こさなければならないことを確信いたします。それは、国際的、全国的、産業界で、また個人のレベルでもあり、なおかつ緊急性を意識して行われるべきものです。

建築家や建築技術者を始め、学会、産業界、政府からも、世界各地の専門家がサステナブル建築について、その考えを交わすために、ここにお集まりになりましたことは、大変意義深いことと思います。住まいは、食料や衣服と並んで、生活のための基本的な要件です。エネルギーや資源を賢く使う建築物を建設することは、私たちの環境を守るために重要なことです。

人類が数の上で支配的な種であり、私たちが先導的な役割を果たしているとするならば、私たちは、命ある全ての生命体に対して、地球の生態系の調和と均衡を保つ義務があるのではないのでしょうか。

この会議が皆様にとりまして、成功し、また「建設的」なものとなりますよう、願っております。

（当日は英語でお言葉をいただきましたが、その英文を日本語に仮訳いたしました。）